

# 平成 16年 3月期 第 1 四半期業績の概況（連結）

平成 15年 8月 5日

上場会社名 飯野海運株式会社 (コード番号 9119 東大名福札)  
 (URL <http://www.iino.co.jp>)  
 代表者役職名 代表取締役社長 氏名 太田 健夫  
 問合せ先責任者役職名 経理グループリーダー 氏名 河原 一夫 TEL (03) 3506 - 3180

## 1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

売上高の会計処理の方法の最近連結会計年度  
 における認識の方法との差異の有無 : 無

## 2. 16年 3月期第 1 四半期の業績概況（平成15年 4月 1日 ~ 平成15年 6月30日）

(1)売上高 (注) 金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

	売上高
	百万円
16年3月期第1四半期	13,684
15年3月期第1四半期	-
(参考) 15年3月期	55,961

(注) 前年同四半期については、四半期決算を行っていないため記載しておりません。  
 また、前年同四半期との比較についても記載しておりません。

### [売上高に関する補足説明]

当第 1 四半期の世界経済は、イラク戦争の早期終結によりとりあえず最大の不透明材料はなくなりましたが、米国においては雇用改善なき景気回復（ジョブレスリカバリー）が緩やかに続くなかで、デフレ懸念が浮上して参りました。アジアでは新型肺炎SARSの感染拡大により、中国の小売、生産の伸びの鈍化が心配されましたが、景気への影響は限定的な範囲内に止まりました。日本経済もイラク戦争終結により米国向け輸出が持ち直したことにくわえ、SARS感染拡大によるアジア向け輸出への影響も軽微だったことから比較的堅調に推移いたしました。

このような経済環境の中で、海運業においては鉄鋼原料を中心に中国向けの海上荷動きが引き続き好調だったことにより、一般不定期船市況が高い水準で推移しました。また、ケミカルタンカー部門において米国有力船社との共同運航により、大西洋水域での集荷力が強化され、好採算を維持しました。一方、賃貸ビル事業においては、東京都心部でのオフィスビル大量供給により既存の大型ビルの空室率が上昇の一途を辿り、賃料水準の低下も進み、厳しい環境が続きました。

この結果当第 1 四半期の連結売上高は 1 3 6 億 8 4 百万円となりました。

### [ご参考]

連結経営成績の進捗状況 (注) 金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
16年3月期第 1 四半期	13,684	1,410	953	683

個別経営成績の進捗状況 (注) 金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
16年3月期第 1 四半期	12,543	1,082	865	476

(注) 各数値は監査法人による監査を受けておりません。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

[概要]

該当する事象はありません。

3. 16年3月期の業績予想(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

連結

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
中間期	27,500	2,500	1,500	800
通期	56,000	5,400	3,000	1,700

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 16円88銭

個別

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
中間期	24,500	1,900	1,400	600
通期	50,000	3,600	2,900	1,500

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 14円89銭

[業績予想について]

当第1四半期の業績は海運市況が堅調に推移したことにより当初予想を上回っております。第2四半期以降の業績も、一般不定期船市況が引き続き高い水準を維持すると予測されること、および原油タンカーの定期傭船契約を有利に締結したことなどにより、当初予想を上回って推移するものと見込まれますので、平成15年5月16日に公表致しました通期および中間期の連結・個別業績予想を上記の通り修正しております。

上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上